

梵珠だより

～トピック～

○ナナカマド

齋藤 信夫 (青森自然誌研究会)

●ツリフネソウ [釣船草] ツリフネソウ科

長尾 キヨ (津軽植物の会)

○アカヌグカタムシ (カタムシ科)

鳴海 富美子 (津軽昆虫同好会)





ナナカマドの果実 樹下に相当の落果が見られた
(2024年11月10日)



ナナカマドの花
(2008年5月8日 場所は不明)

ナナカマド

齋藤 信夫（青森自然誌研究会）

ナナカマドは山岳域から低地まで幅広く分布する。ブナやミズナラのように高木として樹林を形成するような木ではないが、標高が上がるにつれ、シナノキやダケカンバなどとともに風衝型を呈して、低木林を形成する」とがある。梵珠山ではそのような場所は存在しないのだろうが、山頂から陸奥湾を眺めたときに、昔伐採されたと思われる区域の縁沿いにナナカマドが点々と生えているのを目にしたことがあった。

マンガンの道やサワグルミの道を歩きながら林内を見渡すと、所々に幼木やそれほど大きくもないナナカマドが見えていることがある。

ところで、ナナカマドは街路樹としても多用され、たとえば青森市の観光通りでは樹高3~4mほどのナナカマドが道路わきに植樹されている。その通りは片側2車線の広い車道（ところによっては3車線）である。そのため、樹高が低く、生育状況が良好とはいえそうにもないナナカマドの並びがきやしゃに見え、通り自体に潤いがないようにみえてしまう。

ナナカマドは5月頃に多くの白い小さな花を集め花序を見せる。図鑑などには花びら5枚、おしべ20本、花柱は3~4本と書かれているが、

実際に確かめたことはない。それでもバラ科らしい雰囲気を漂わせる。

初夏に目立っていたナナカマドも、季節が移るにつれ、梵珠山でも、ほかの植物の中に溶け込んで目立たなくなってしまう。しかし、秋になるとナナカマドは再び存在を主張し始める。羽状複葉を作り、葉の一枚一枚が、秋が近づくとともに色づき始め、緑色が黄色や赤色へと変わっていくのだ。標高の高い場所で群生して低木林を形成しているナナカマドの場合、斜面一面がナナカマドの秋色で埋め尽くされることもある。そしてまた、夏には緑色だった果実も、やはり、秋の深まりとともに赤色に熟すようになる。晚秋、特に山岳では葉がすでに落下しているにもかかわらず、赤い実だけが、すくいボリュームで残っている」ともある。

2024年、梵珠山のナナカマドが、やたらに多くの果実を実らせているように見えた。鈴なりという表現がぴったりだった。さりに、街中の植樹ナナカマドでも同じような気がした。2024年はナナカマドの生育に良い環境だったのだろうか。

ツリフネソウ「釣船草」ツリフネソウ科

長尾 千尋 (津軽植物の会)

花の形がユニークで帆かけ船をつり下がったようなので「釣船草」とはとてもわかり易い。

この花こそ私の原点なのである。学生の頃夏休みに五所川原市飯詰地区に足を運んだ。川岸に群落を作つて咲いているツリフネソウを見たとき「不思議な形をしてなんと美しい花なんだろう」と心底感動したことを忘れることができない。

山野の山林や沢沿いに生え、成長が旺盛でよく群落する。高さ50~80cm多くがふくらんでいて目立つ。直立していてよく枝分かれし大きな株になる。葉は互生し柄がある。長さ6~14cm広披針形で、へりに細かい鋸歯があり先是とがる。花期は7~9月茎の先の葉腋から紅紫色の枝を3~4本出しそれぞれの枝に数個の花をつり下げつけられる。花は紅紫色で径3cm。白花品も見られ「シロツリフネ」という。どれが花弁でどれが萼片かきちんと

観察したことはありますか。

花弁は3個あり、上方の1個は小さく側方の2個は左右に大きく広がる。下の1個は筒状の距となつて先が渦巻状に巻き蜜を蓄える。ツリフネソウは津軽地方では「普通」に見られるもので、キツリフネと混生することも多いたよなので「黄釣船」これもなかなか風情がある。梵珠では車道などで普

通に見られる。

ツリフネソウの果実は長さ1~2cm。熟すとわずかの刺激で小さな種子をはね飛ばす。観察会では完熟した実を見つけては触つて種子をはじき飛ばして遊ぶ。みんな大喜びする。熟した果実は触ると急にはじけて種子を飛ばすことから学名はインパチエンスという。インパチエンスは「我慢できない」という意味である。梵珠では3種のツリフネソウが見られるのがうれしい。



シロツリフネ



ツリフネソウ



キツリフネ

アカスジカメムシ(カメムシ科) 鳴海 富美子 (津軽昆虫同好会)

赤と黒の縞模様が美しい1cmほどのカメムシで、この縞模様から「アカスジ」の名前がついた。胸部のなだらかな膨らみ等の特徴から、他の昆虫とは区別やすい。北海道から南西諸島までセリ科植物の生えている場所では、海岸から平地・山地まで広く分布している。赤と黒の縞模様は警告の役割をしていて、カメムシ特有の臭いは殆ど無い。目立つ色彩を持たないカメムシは悪臭を放つて敵を驚かせる必要があるのだと思われる。

成虫越冬で、樹皮の下や落ち葉の間などで冬を過ごし、翌年の春から秋にかけて発生する。私は梵珠では7月中旬に成虫を観察している。

成虫も幼虫もセリ科植物の花や種子の汁を吸うため、殆どを花の上だけで過ごし、葉の方に降りてくることはあまりない。葉の汁は好まないのだろう。特に幼虫は種子を好んで吸汁しているようだ。

我が家では毎年産卵に来るキアゲハのためにイワテトウキを植えているがキアゲハの幼虫も葉より花や種子・茎を好んで食べているようだ。



アカスジカメムシ
梵珠 2006.07.14



アカスジカメムシ幼虫
自宅 2002.9.22

毎年半分以上が食べられてしまうが葉は殆ど食べられていない。真夏の熱い中でも花の上にいるのにはあきれてしまう。

今年も8月に入つてキアゲハが来て産卵した。キアゲハ幼虫とアカスジカメムシが仲良く頭を付き合わせて食事していることもある。孵化したばかりのアカスジカメムシの幼虫は淡いベージュ色をしていて、殆ど目立たない。しばらくは集団でいるが、成長するにつれて分散していく、次第に赤みを増して赤と黒の縞模様になつていく。

9月に入ると終齢になつたキアゲハ幼虫は蛹になるため次々に姿を消して生き、アカスジカメムシも成虫になつて次々に姿が見えなくなつて、後にはイワテトウキの葉と少しばかりの種子と茎だけが残つた。

～イベントレポート～

●梵珠作品展

10月1日(水)～10月29日(水)



●紅葉の白岩森林公園探訪

10月25日(土)



●クラフト教室～クリスマス飾り～

12月7日(日)



●梵珠の森・秋のふれあいデー

10月4日(土)～10月5日(日)



●自然まるごと発表会・特別講演会

11月2日(日)



●野鳥観察会～浅所海岸から清水川漁港にかけて～

12月14日(日)



～これから観察できるもの～

(前年度の観察記録参照)

	1月前半	1月後半	2月前半	2月後半	3月前半	3月後半
植物			樹木の冬芽など			フキノトウ
昆虫			セッケイカワゲラ、ガの仲間			
鳥類	カケス ツグミ ウソ	イカル アオゲラ ※トラツグミ	アトリ群れ カケス イカル	カワガラス ヒヨドリ エナガ	ヤマガラ ヤマドリ ヒガラ	カワラヒワ ホオジロ ミソサザイ
その他			動物の雪上の足跡 カモシカ、ニホンリス、テン、キツネ、ニホンノウサギなど			

※夏鳥（一部越冬）